
(参考資料)

目次

都市づくりの視点における現状等

【見直しの方向性の検討において新たに追加した資料】

(1) 魅力ある都市づくり	
① 川崎市の地勢と交通環境	P1
② 鉄道駅の利用者数	P1
③ 鉄道駅端末手段（都市拠点）	P2
④ 土地利用転換の状況	P2
⑤ 容積率使用割合の状況	P3
⑥ 人口の推移（都市拠点）	P3
(4) 産業の発展を支える都市づくり	
① 本市に立地する主な学術・研究開発機関等	P4
② 市内製造事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移	P4
③ 工業系土地利用の推移	P5
④ 事業所・従業者密度の状況	P5

【整開保等の見直しの基本的考え方より】

(1) 魅力ある都市づくり	
① 首都圏の交通に関する動向	P6
② 市街地の成立ちと地域特性	P6
③ 人口の推移（区別）	P7
④ 広域的な道路交通網（3環状9放射）	P7
⑤ 身近な交通（コミュニティ交通の運行状況）	P8
⑥ 景観形成への取組状況	P8
(2) 誰もが暮らしやすい都市・住まいづくり	
① 高齢者数の推移（ひとり暮らし高齢者・高齢者夫婦世帯）	P9
② 住宅総数と世帯数の推移	P9
③ 世帯と住宅規模の関係	P10
④ 地域包括ケアシステムの構築に向けた取組	P10
(3) 緑と水の豊かな環境に配慮した都市づくり	
① 温室効果ガス排出量の推移	P11
② 緑地総量の推移	P11
③ 生産緑地や特別緑地保全地区の指定等による保全施策	P12
④ 大都市における公園面積の比較	P12
⑤ 市街化区域と市街化調整区域の指定状況	P13
(4) 産業の発展を支える都市づくり	
① キングスカイフロントにおける国際戦略拠点の形成	P13
② 製造業における製造品出荷額等の大都市比較	P14
③ 住工混在地域の状況	P14

(5) 災害に強い都市づくり	
① 日本における震災リスク	P15
② 川崎市直下地震の被害想定	P15
③ 降水量に関する状況	P16
④ 阪神・淡路大震災における人命救助の状況	P16
(6) 市民が主体となる身近な地域づくり	
① 地区計画の活用状況	P17
② 地区まちづくり育成条例の活用状況	P17
(7) 人口減少を見据えた持続可能で効率的な都市づくり	
① 将来人口推計	P18
② 人口増加・減少地区の状況	P18
③ 人口密度の状況	P19
④ 将来人口密度の予測	P19
⑤ 高齢化の状況	P20
⑥ 子育て世帯（6歳未満の子どもを含む世帯）の分布状況	P20
⑦ 都市機能施設の分布状況	P21
⑧ 公共施設の老朽化	P21
⑨ 市内鉄道網の状況	P22
⑩ バス停から高低差のある地区の状況	P22

【都市計画マスタープランの見直しに関する市民アンケート結果より】

① 現居住地の評価	P23
② 現居住地の評価（区別集計）	P23
③ 鉄道駅までの所要時間別住環境評価	P24
④ 少子高齢化・人口減少の影響	P24
⑤ 少子高齢化・人口減少の影響（年齢別集計）	P25
⑥ 年齢別継続居留意向	P25
⑦ 年齢別住み替え条件	P26
⑧ 年齢別居住地評価	P26
⑨ 都市計画マスタープランの重要テーマ	P27
⑩ まちづくりの参加意向	P27
⑪ 都市計画マスタープランの認知度	P28

【追加】(1) 魅力ある都市づくり

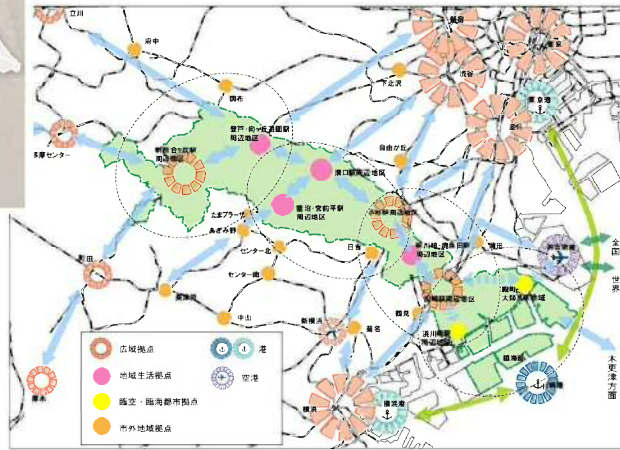
川崎市の地勢と交通環境

本市は、首都圏の中央に位置する地理的優位性に加え、川崎駅は、東京、品川、羽田空港から20分以内に位置するなど、充実した鉄道網を有している。



東京を中心とした距離圏
川崎市は20～30km圏内に位置している

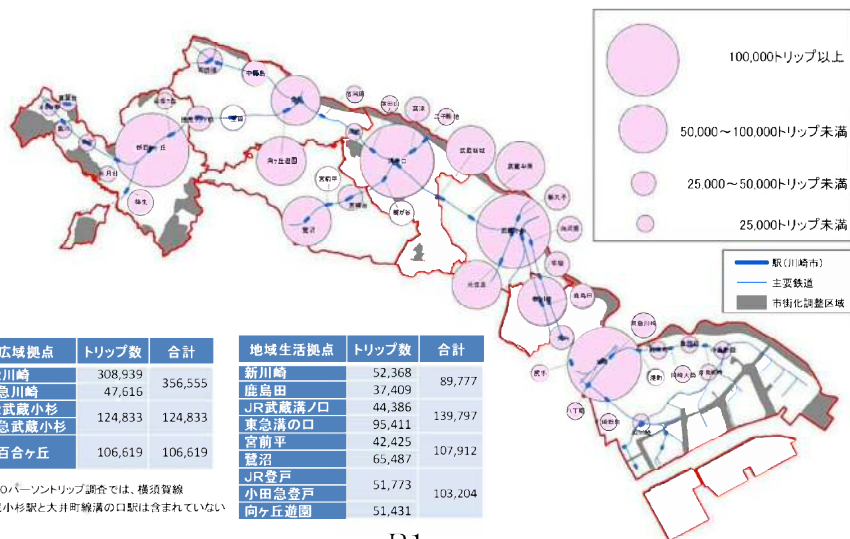
出典：川崎市総合計画
有識者会議資料



【追加】(1) 魅力ある都市づくり

鉄道駅の利用者数

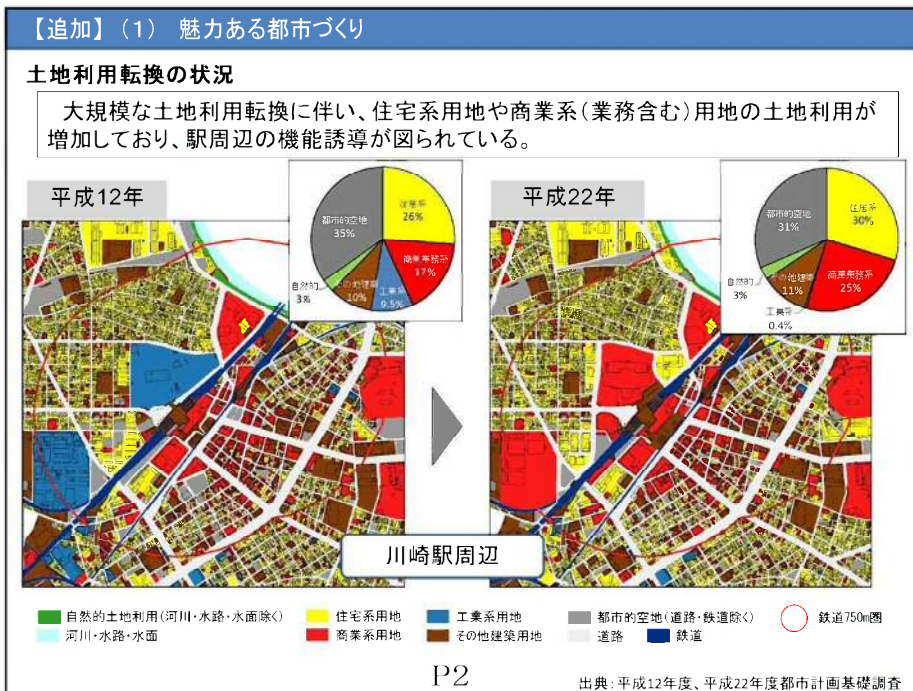
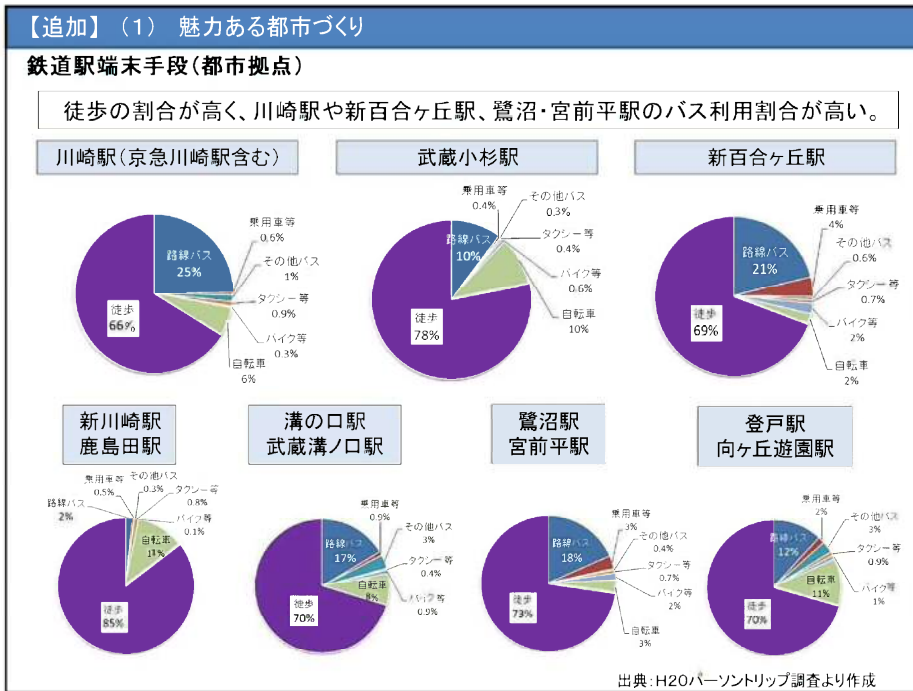
川崎駅、武蔵小杉駅、新百合ヶ丘駅における駅の乗降数が多い。

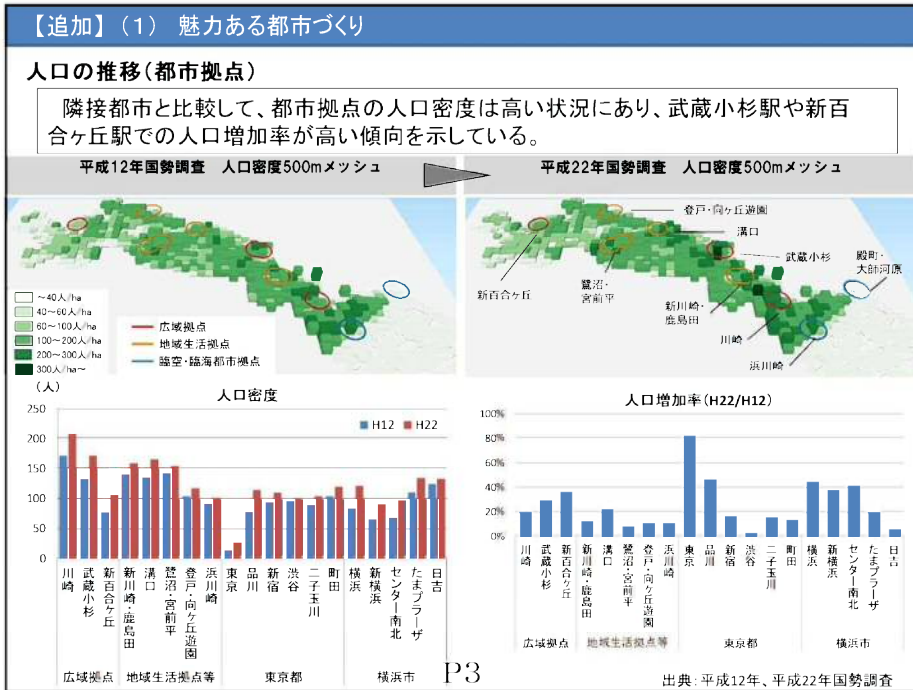
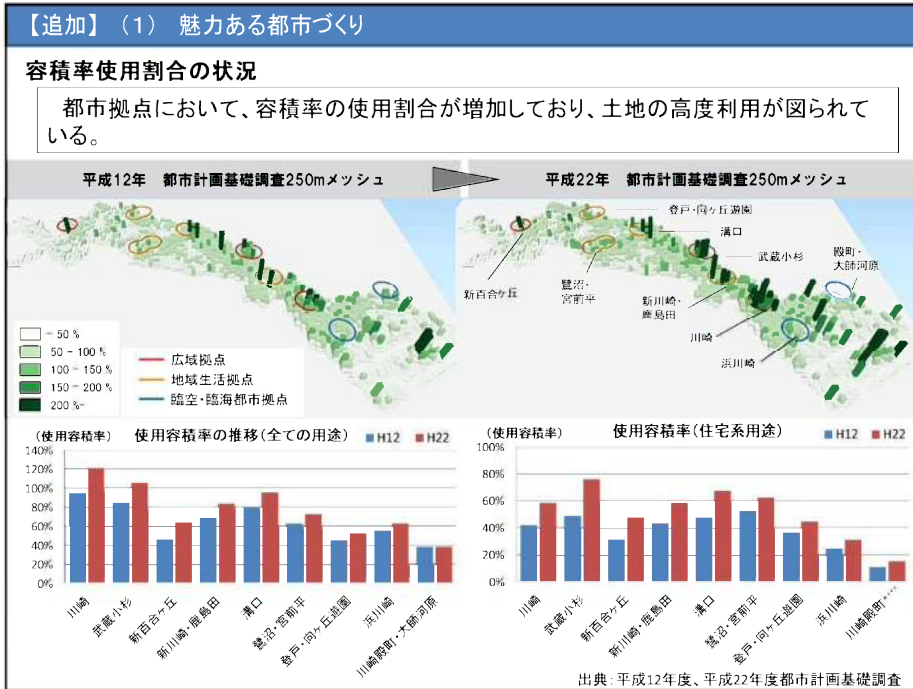


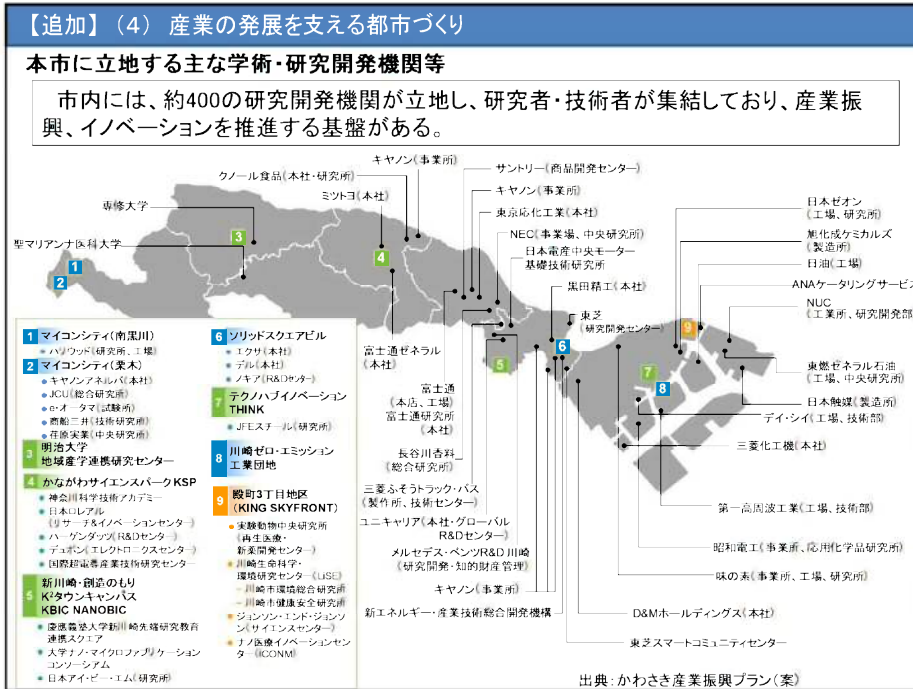
※H20パーソントリップ調査では、横須賀線
武蔵小杉駅と大井町線溝の口駅は含まれていない

P1

出典：H20パーソントリップ調査より作成







(1) 魅力ある都市づくり

首都圏の交通に関する動向

市域を超えて広域的に展開する市民行動圏の傾向は、鉄道路線を中心に形成され、東京区部や横浜との結びつきが強く、将来においても交通量はほぼ変わらない。

(万トリップ/日)

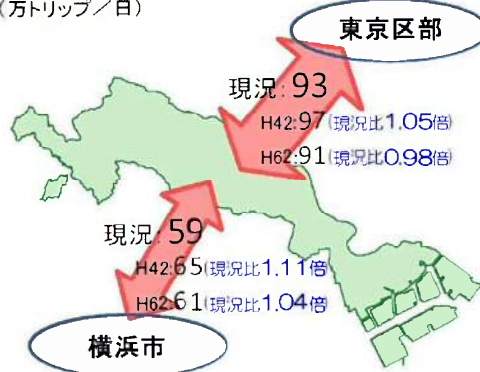


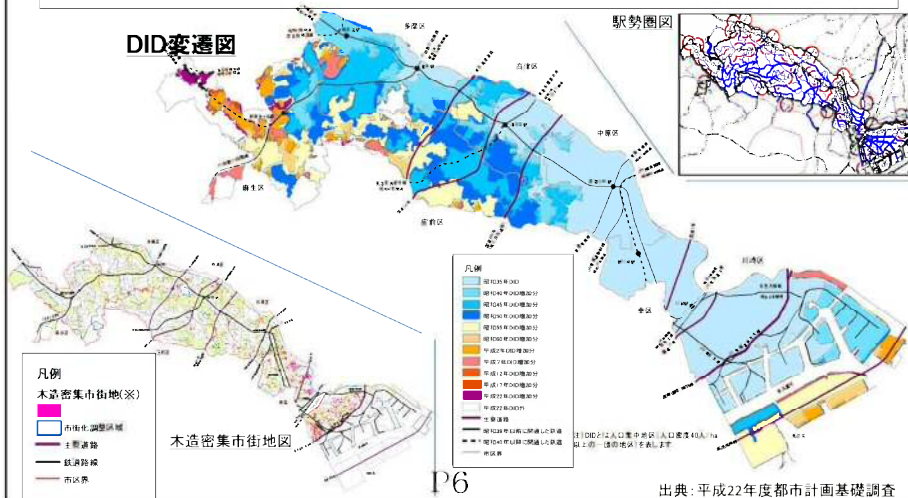
図 川崎市の内外・外内交通量の推移

出典:川崎市総合都市交通(H20パーソントリップ調査より作成)

(1) 魅力ある都市づくり

市街地の成立ちと地域特性

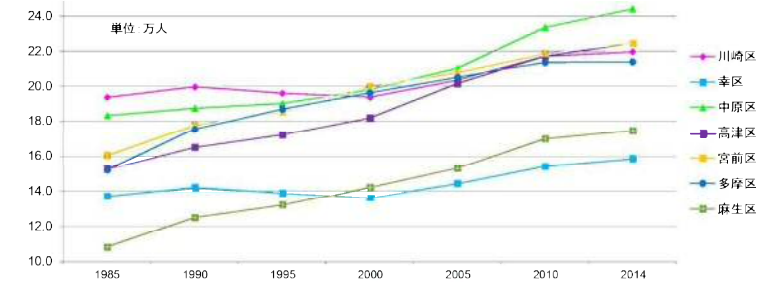
川崎区や幸区の南部エリアでは、戦後の急速な市街化により、狭あい道路が残されたまま市街化された地区がみられ、麻生区や多摩区、宮前区などの北部エリアでは、駅勢圏に対する市域の奥行きが大きく、山坂が多いなど、エリア毎の地域特性が異なっている。



(1) 魅力ある都市づくり

人口の推移(区別)

近年の拠点整備により、中原区で高い人口増加の伸びを示している一方で、多摩区では人口の伸びが鈍化している。



各区分人口の推移 単位:万人

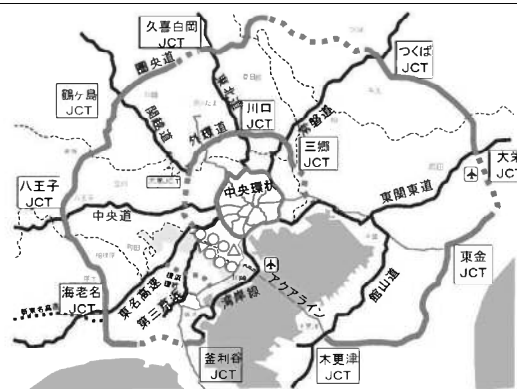
	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2014年
川崎区	19.4	20.0	19.6	19.4	20.4	21.7	22.0
幸区	13.7	14.2	13.9	13.6	14.4	15.4	15.9
中原区	18.3	18.8	19.0	19.8	21.1	23.4	24.4
高津区	15.3	16.5	17.2	18.2	20.2	21.7	22.5
宮前区	16.1	17.8	18.5	20.0	20.8	21.9	22.5
多摩区	15.2	17.6	18.7	19.7	20.5	21.4	21.4
麻生区	10.8	12.5	13.2	14.2	15.3	17.0	17.5

出典: 川崎市総合計画
有識者会議資料

(1) 魅力ある都市づくり

広域的な道路交通網(3環状9放射)

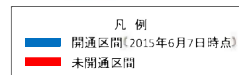
放射方向と比較して整備が遅れている環状道路網として、首都圏3環状道路の整備が進められている。



3環状9放射



3環状9放射ネットワーク構想



(1) 魅力ある都市づくり

身近な交通(コミュニティ交通の運行状況)

路線バスの利便性向上やバス路線網の充実に向けた取組を基本に、路線バスによる対応が難しい場合は、地域の特性やニーズに応じた交通手段として、地域が主体となり、コミュニティ交通の導入が行われている。

麻生区高石地区
「山ゆり号」H23.9本格運行

多摩区長尾台地区
「あじさい号」H26.12本格運行

出典:川崎市まちづくり局資料

(1) 魅力ある都市づくり

景観形成への取組状況

景観法、都市景観条例、地区計画形態意匠条例の各制度を拠点形成や地域活動の状況に応じて指定している。

景観計画特定地区(全6地区)、都市景観形成地区(全7地区)、形態意匠条例に基づく区域(全11地区)の指定状況



P8

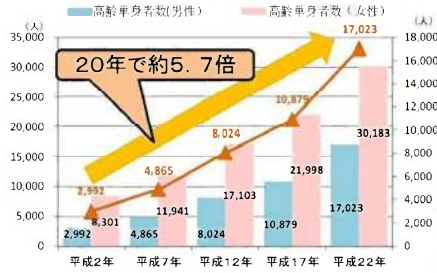
出典:川崎市まちづくり局資料

(2) 誰もが暮らしやすい都市・住まいづくり

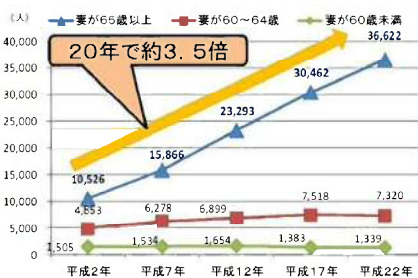
高齢者数の推移(ひとり暮らし高齢者・高齢者夫婦世帯)

高齢者人口が増加する中、ひとり暮らしや夫婦のみの高齢者世帯が増加している。

ひとり暮らし高齢者数の推移



高齢者夫婦世帯数の推移



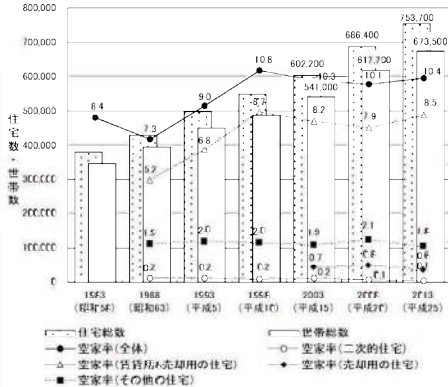
出典:平成22年国勢調査結果

(2) 誰もが暮らしやすい都市・住まいづくり

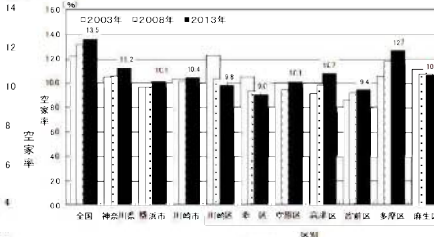
住宅総数と世帯数の推移

本市の住宅総数75.4万戸に対し、世帯総数は67.4万世帯であり、いずれも過年度から増加している。また、本市の空き家率は10.4%と、全国平均の13.5%より低い状況にあるが、別荘や賃貸、売却用の目的以外で存在し、防災・防犯等の諸問題を引き起こすことが懸念される空き家(その他の住宅)が一定数存在している。

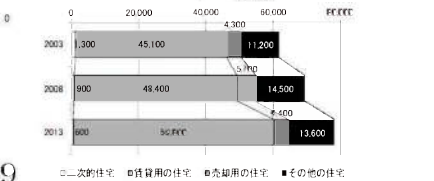
住宅総数と世帯総数の推移



区別・他都市の空き家率の推移



空き家の内訳の推移

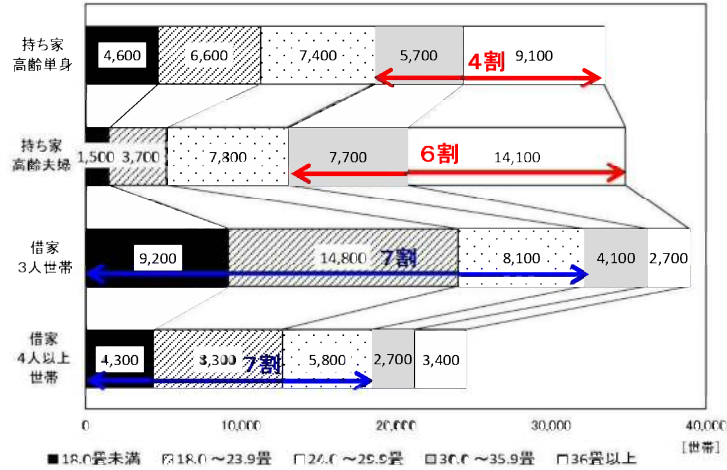


出典:平成25年住宅・土地統計調査

(2) 誰もが暮らしやすい都市・住まいづくり

世帯と住宅規模の関係

借家に居住するファミリー世帯の7割は、居住面積が30畳未満の住宅に住んでおり、一方、持ち家に居住するひとり暮らし高齢者の4割と高齢者夫婦のみの世帯の6割は、居住面積が30畳以上の住宅に住んでいる。

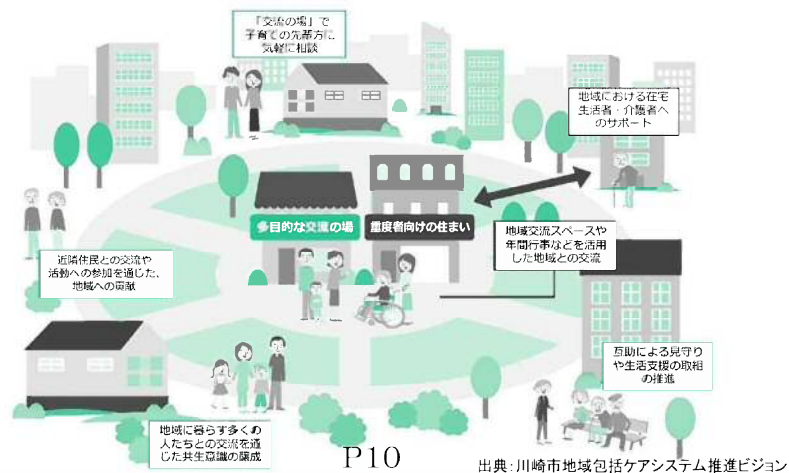


(2) 誰もが暮らしやすい都市・住まいづくり

地域包括ケアシステムの構築に向けた取組

誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域を実現するため、本市では、地域包括ケアシステム推進ビジョンに基づいた取組を推進している。

ライフスタイルに合った「住まい方」の実現(イメージ)

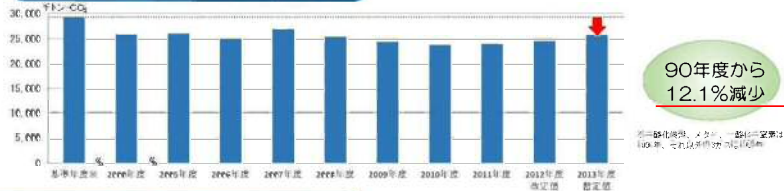


(3) 緑と水の豊かな環境に配慮した都市づくり

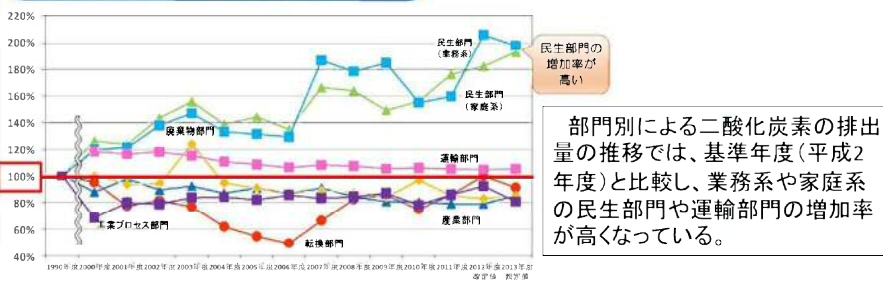
温室効果ガス排出量の推移

本市では、温室効果ガスを削減する取組を推進し、基準年度(平成2年度)との比較では、温室効果ガス排出量の総量は減少している。

市内温室効果ガスの排出推移



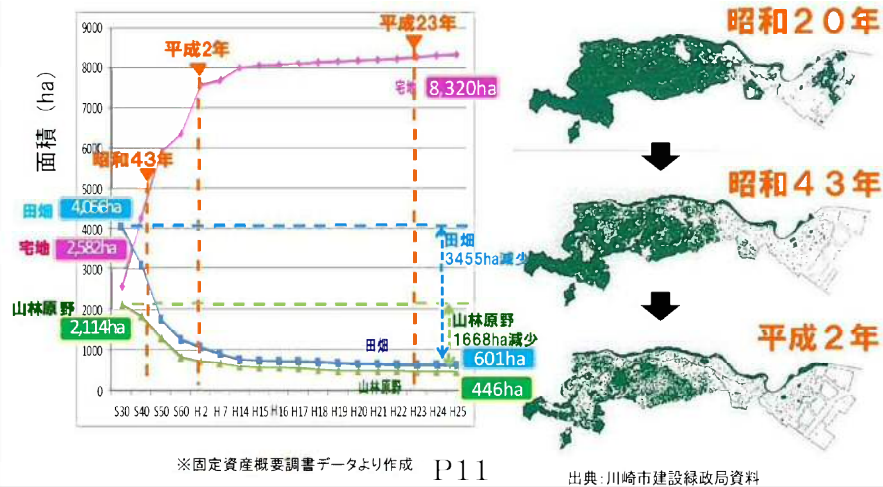
市内部門別の二酸化炭素排出量基準年度比の推移



(3) 緑と水の豊かな環境に配慮した都市づくり

緑地総量の推移

緑地等は、地球環境に寄与し地球温暖化対策に有効であり、また、生物多様性や市民の憩いの場、防災への寄与など、多様な役割を担っているが、本市の緑の総量は減少し続けている。

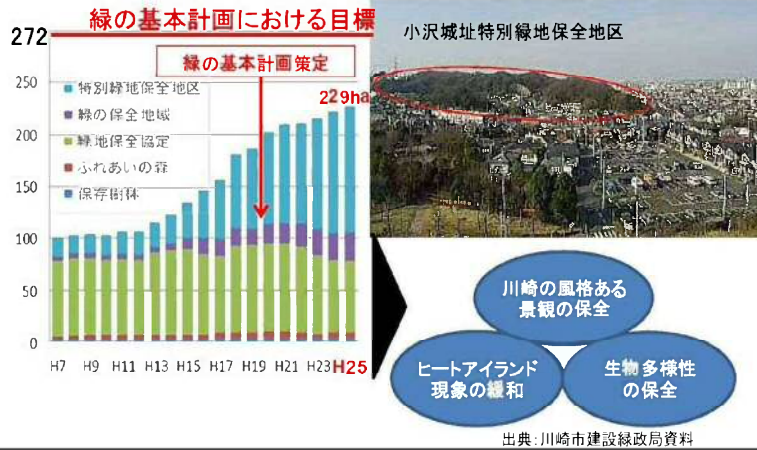


(3) 緑と水の豊かな環境に配慮した都市づくり

生産緑地や特別緑地保全地区の指定等による保全施策

多摩丘陵と多摩川崖線などのみどり軸を保全していくために、様々な緑地保全施策を活用しながら、貴重な樹林地等の保全を進めている。

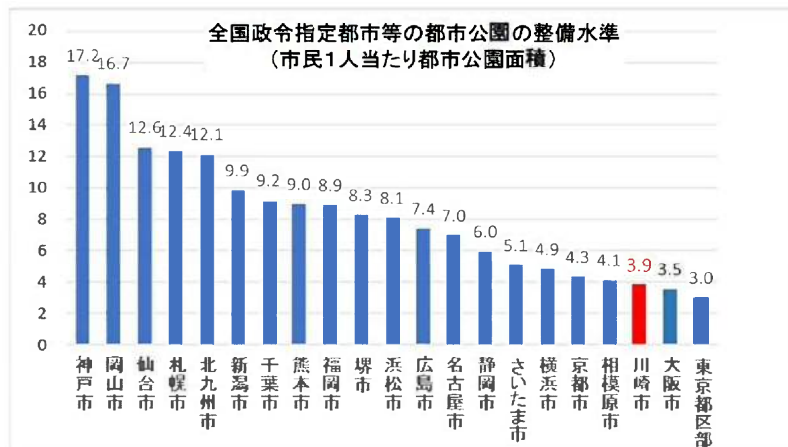
平成25年度末までに、特別緑地保全地区を121.8ha、緑の保全地域を26.9ha指定するなど、計229haを保全している。



(3) 緑と水の豊かな環境に配慮した都市づくり

大都市における公園面積の比較

本市における都市公園の1人当たりの公園面積は3.9㎡と横ばいの状態が続いており、都市公園法に規定する標準面積の5㎡以上(市街地の住民1人当たり)を下回っている。



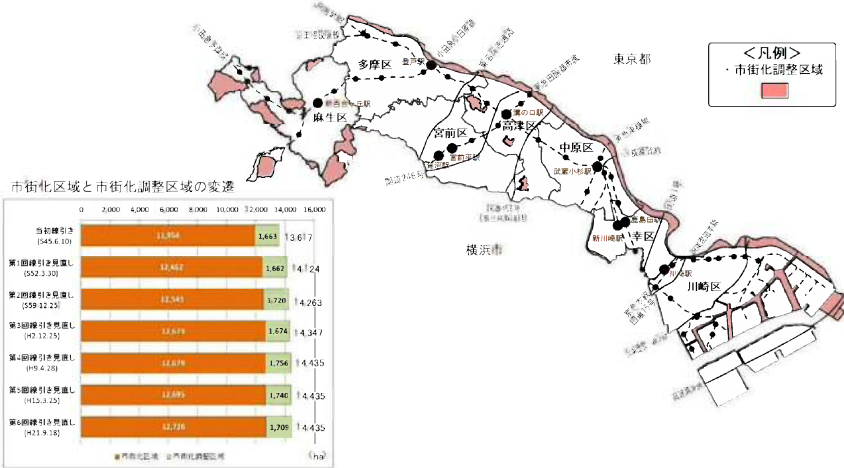
P12

出典: 大都市比較統計年表(平成25年)

(3) 緑と水の豊かな環境に配慮した都市づくり

市街化区域と市街化調整区域の指定状況

市域の約88%が市街化区域、約12%が市街化調整区域であり、大都市の中でも市域に占める市街化区域の割合が高く、市街化が進んでいます。市街化調整区域は、主に多摩川・鶴見川の河川敷や臨海部の埋立地、市北部の市境付近に位置しています。



(4) 産業の発展を支える都市づくり

キングスカイフロントにおける国際戦略拠点の形成

羽田空港の対岸に位置する「キングスカイフロント」を中核として、革新的医薬品・医療機器の開発・製造と健康関連産業の創出が、今後は川崎を含む東京圏が国家戦略特区に指定されたことに伴い、国主導の規制緩和、税制・金融支援措置により、ビジネスや研究開発のしやすい環境整備を推進している。



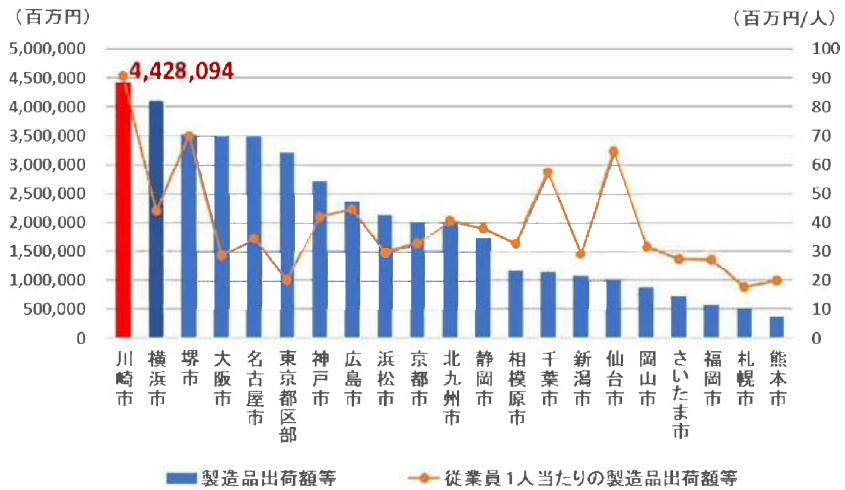
P13

出典：川崎市総合計画有識者会議資料

(4) 産業の発展を支える都市づくり

製造業における製造品出荷額等の大都市比較

本市の製造品出荷額等は政令市で最も高い。

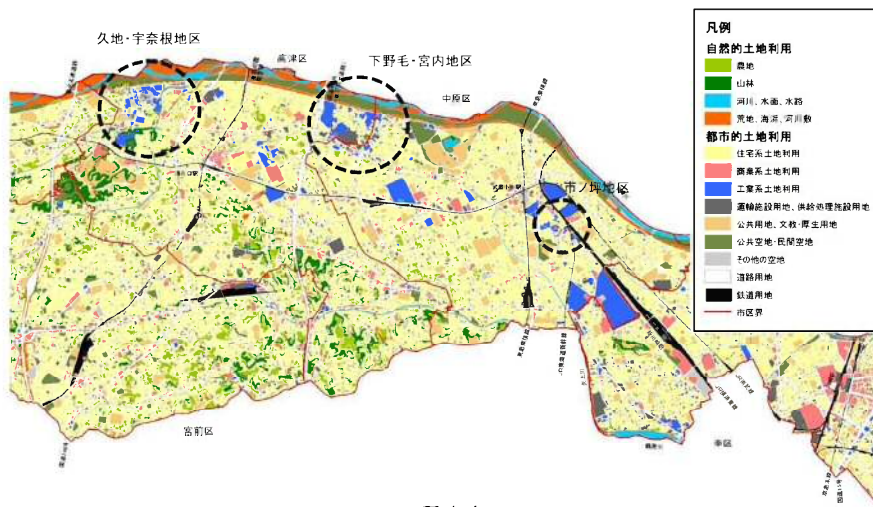


出典: 大都市比較統計年表(平成25年)

(4) 産業の発展を支える都市づくり

住工混在地域の状況

多摩川沿いの中原区の市ノ坪地区、宮内地区や高津区の下野毛、久地・宇奈根地区などで住宅系と工業系の土地利用が混在している。



P14

出典: 平成22年都市計画基礎調査

(5) 災害に強い都市づくり

日本における震災リスク

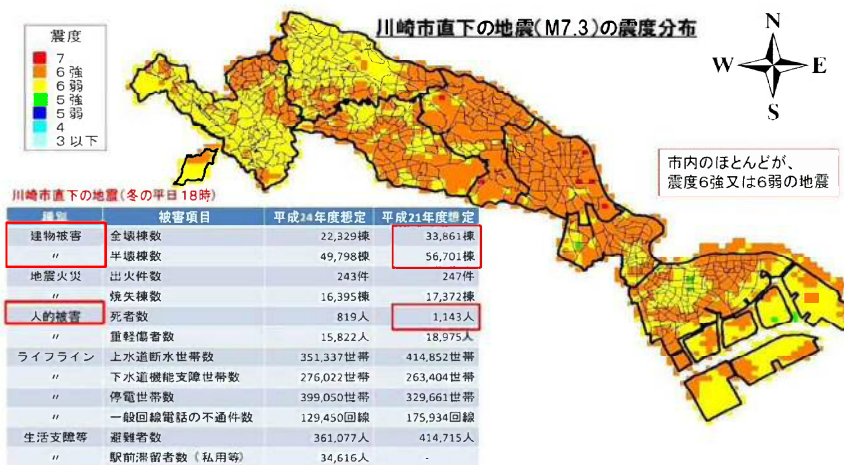
首都直下地震M7クラスが今後30年以内に地震が起こる確率は70%程度、東海・東南海・南海地震M8～9クラスは70%程度となっている。



(5) 災害に強い都市づくり

川崎市直下地震の被害想定

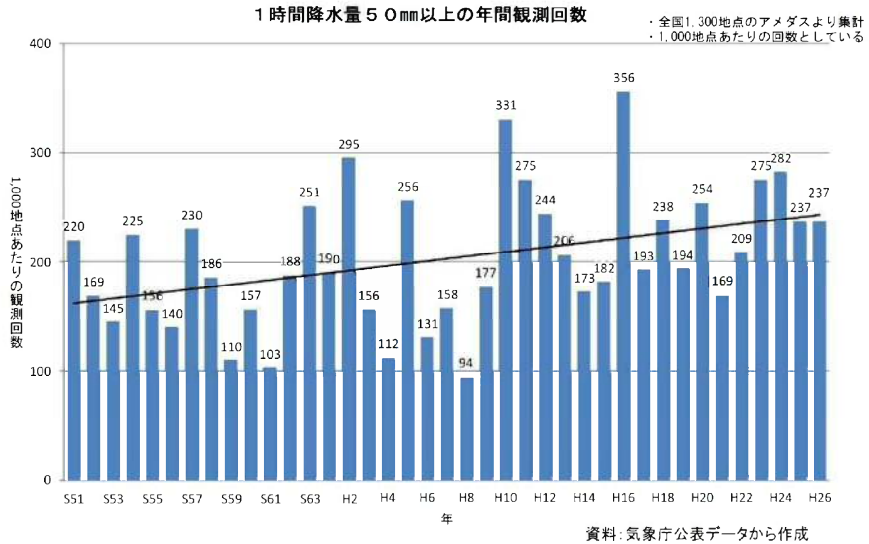
本市では、平成21年度と平成24年度に被害想定調査を行っており、両調査で被害が大きい数値を採用すると、建物被害が約90,000棟、死者約1,000人強と想定している。



(5) 災害に強い都市づくり

降水量に関する状況

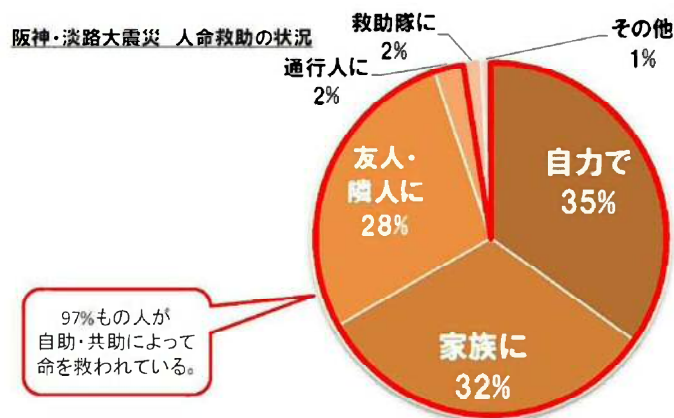
1時間降水量が50mm以上の年間発生回数は増加傾向にある。



(5) 災害に強い都市づくり

阪神・淡路大震災における人命救助の状況

阪神・淡路大震災では、生き埋めや閉じ込められた際、救助隊に救助された人の割合は、約2%に過ぎなかった。



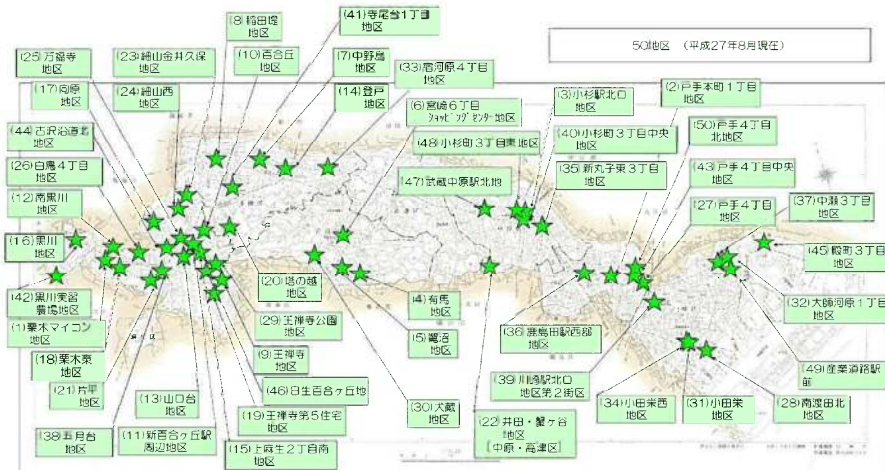
P16

出典: 1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書

(6) 市民が主体となる身近な地域づくり

地区計画の活用状況

市街地開発事業に伴う区域に加え、住民主体のまちづくりを行政計画として位置付ける地区計画区域を50地区で指定している。

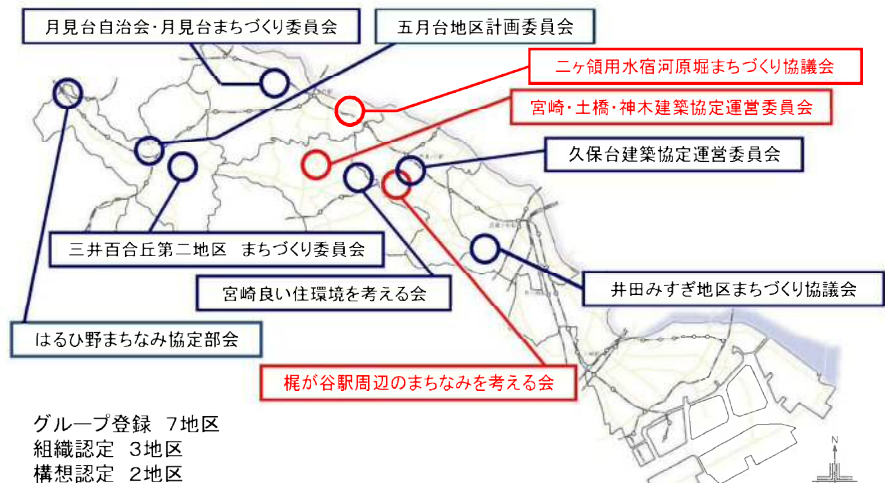


出典：川崎市まちづくり局資料

(6) 市民が主体となる身近な地域づくり

地区まちづくり育成条例の活用状況

地区まちづくり育成条例に基づき、7グループが登録、3地区を組織認定しており、2地区でまちづくり構想の認定を行っている。



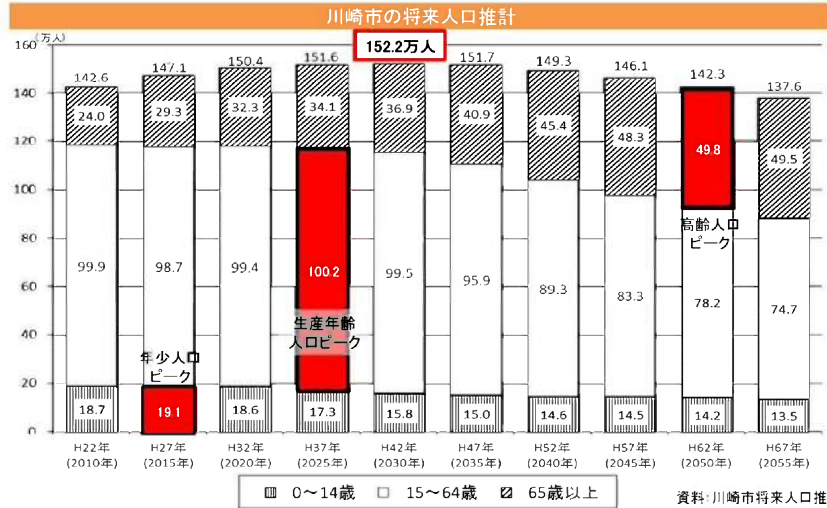
P17

出典：川崎市まちづくり局資料

(7) 人口減少を見据えた持続可能で効率的な都市づくり

将来人口推計

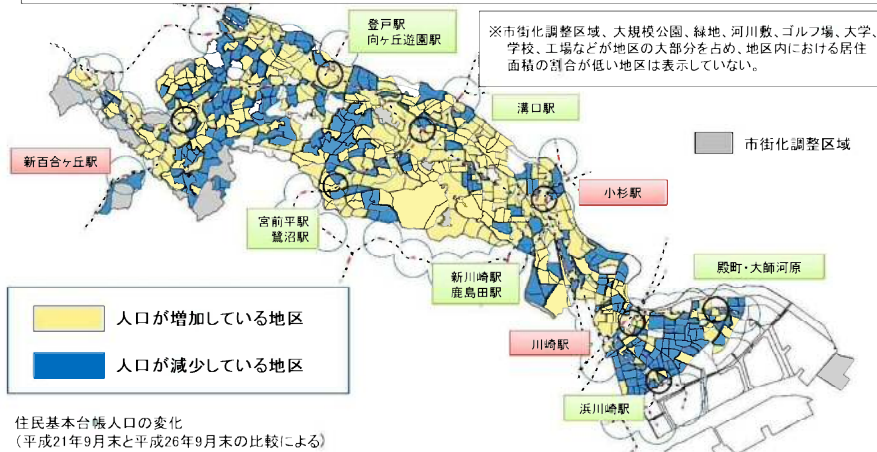
本市の人口は2030年(平成42年)まで増加するがその後減少する。



(7) 人口減少を見据えた持続可能で効率的な都市づくり

人口増加・減少地区の状況

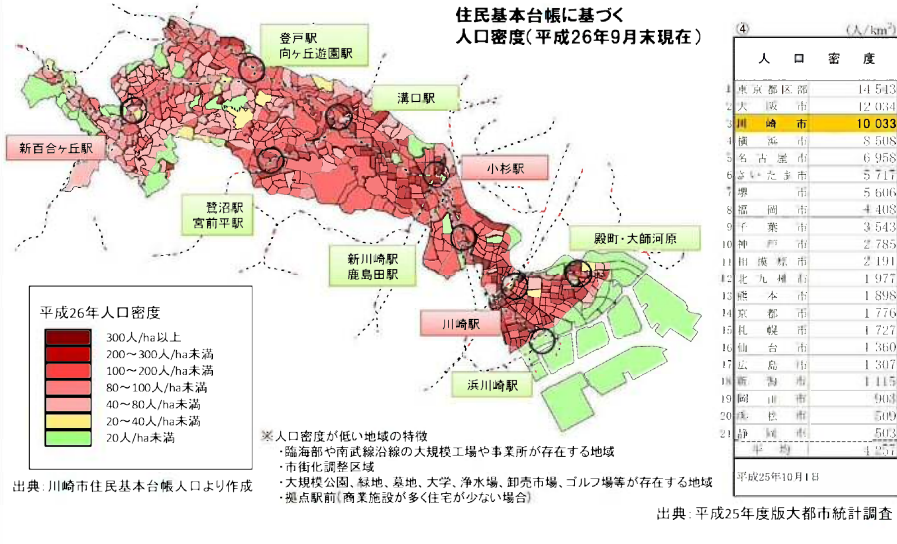
市全体の人口は増加傾向にあるが、地区(町丁目)ごとの人口動態に差が生じている。鉄道が交差するターミナル駅周辺(川崎駅、武蔵小杉駅、新百合ヶ丘駅)等を中心に人口が増加しているが、川崎区内や北部エリアでは人口が減少している地区もみられる。



(7) 人口減少を見据えた持続可能で効率的な都市づくり

人口密度の状況

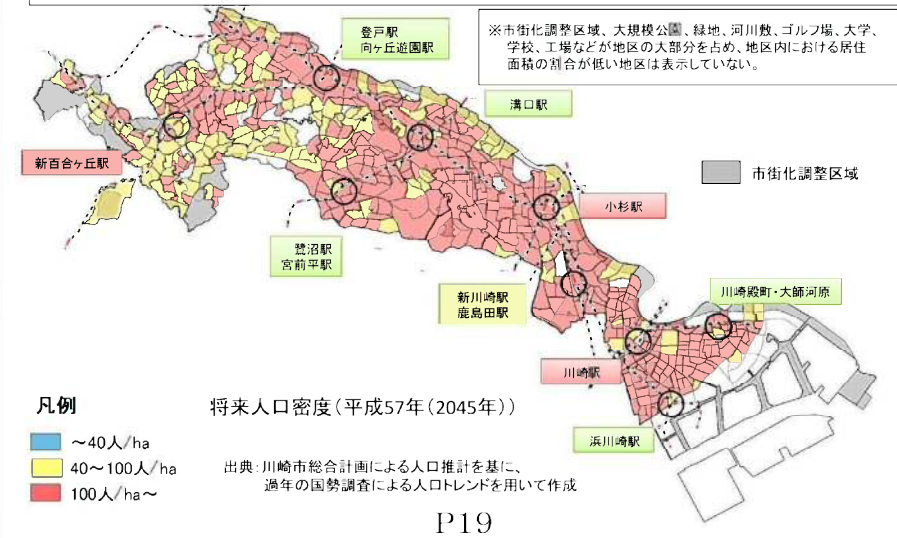
本市の人口密度は、政令市の中で大阪市に次ぎ、高い傾向を示している。



(7) 人口減少を見据えた持続可能で効率的な都市づくり

将来人口密度の予測

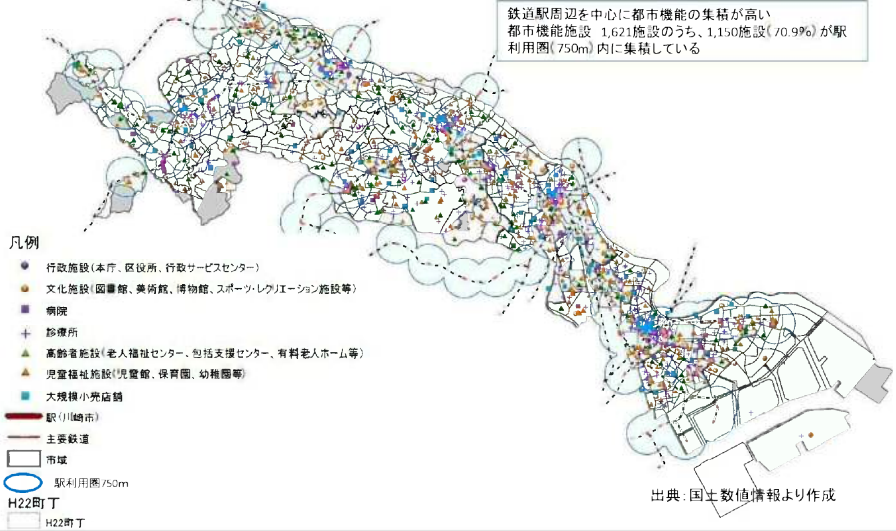
人口減少期においても、公園緑地等が多い地区を除き、40人/haを下回る地区は生じないと予測される。



(7) 人口減少を見据えた持続可能で効率的な都市づくり

都市機能施設の分布状況

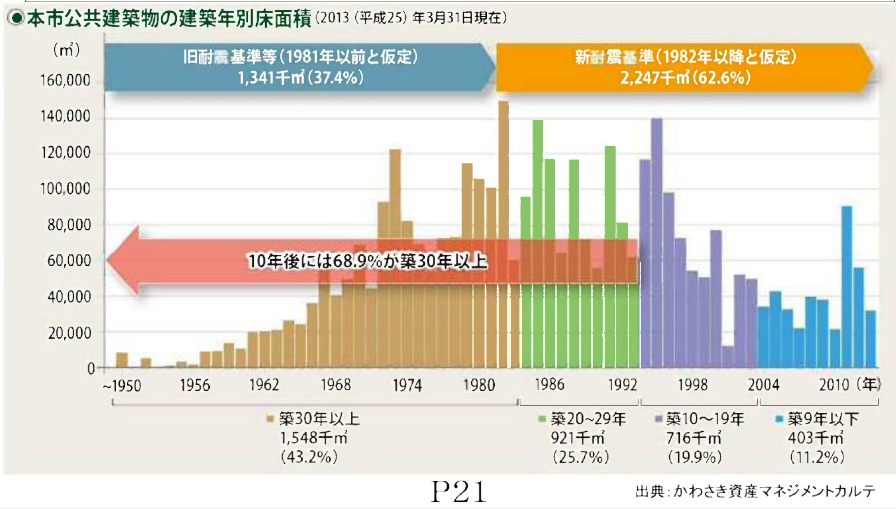
鉄道駅利用圏における都市施設の集積割合は高く、多様な都市機能に効率的にアクセスしやすくなっている。



(7) 人口減少を見据えた持続可能で効率的な都市づくり

公共施設の老朽化

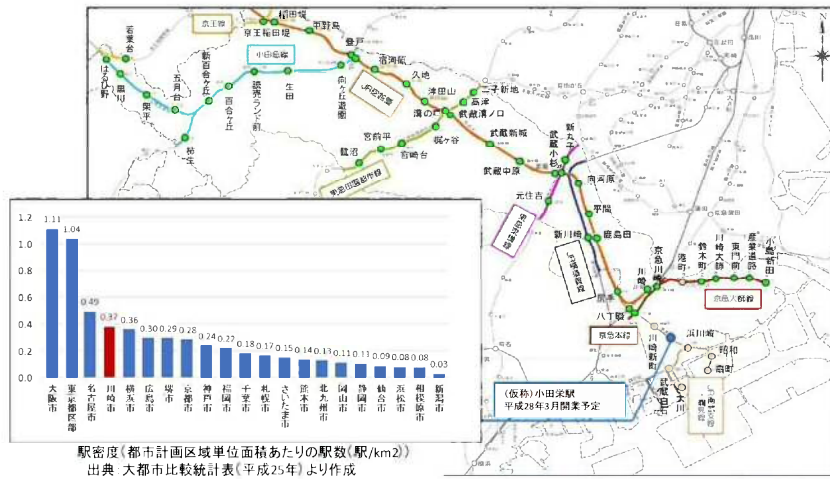
現状の施設をそのまま保有することを前提とした場合、10年後には本市公共建築部の約7割が築30年以上となるなど、施設老朽化に伴う将来的な財政負担の増大・集中が懸念される。



(7) 人口減少を見据えた持続可能で効率的な都市づくり

市内鉄道網の状況

本市には54駅の鉄道駅があり、駅密度は大都市比較で上位の0.37駅/km²であり、およそ半径900mの円内に1駅ある換算となる。

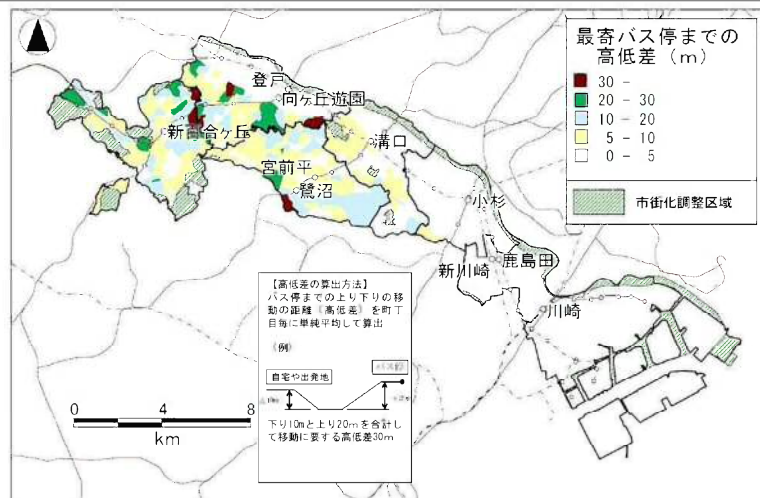


出典: 川崎市総合計画有識者会議資料

(7) 人口減少を見据えた持続可能で効率的な都市づくり

バス停から高低差のある地区の状況

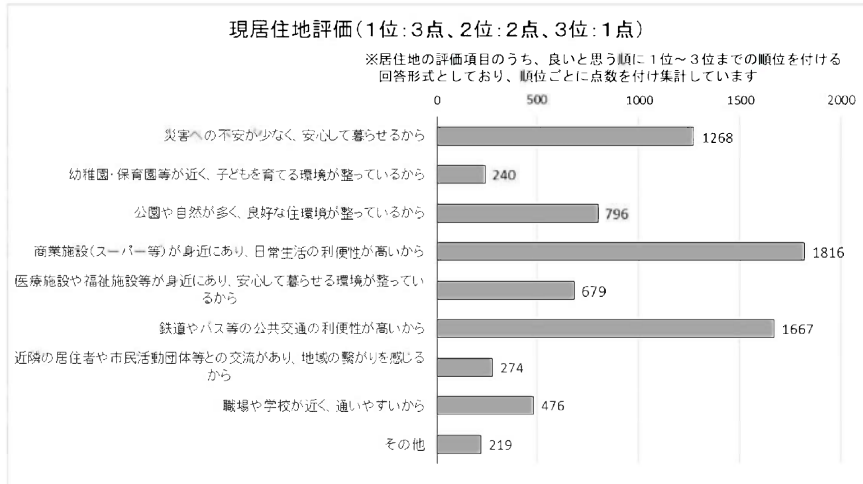
最寄りバス停までの高低差が大きい地区は、麻生区・多摩区など、市の北部地域にみられる。



市民アンケート結果

① 現居住地の評価

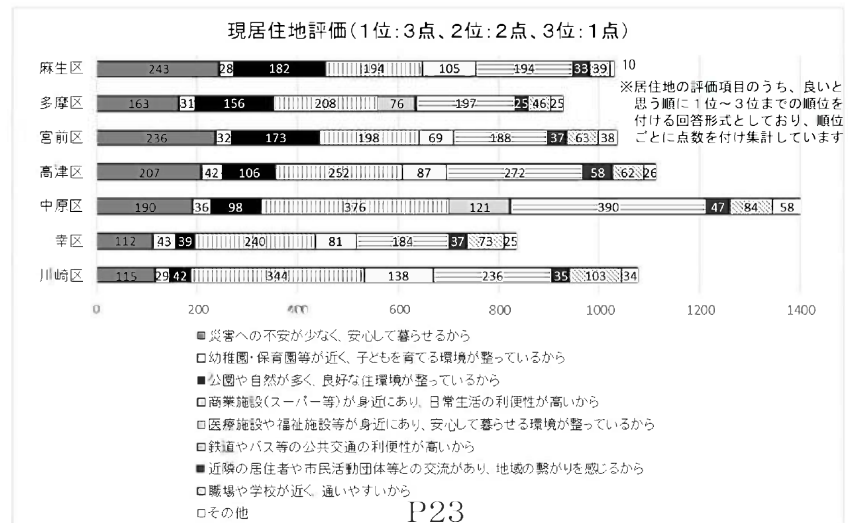
最も評価が高かったのは、商業施設が身近にあり、日常生活の利便性が高いことであり、次いで評価が高かったのは鉄道やバス等の公共交通の利便性が高いことであった。



市民アンケート結果

② 現居住地の評価(区別集計)

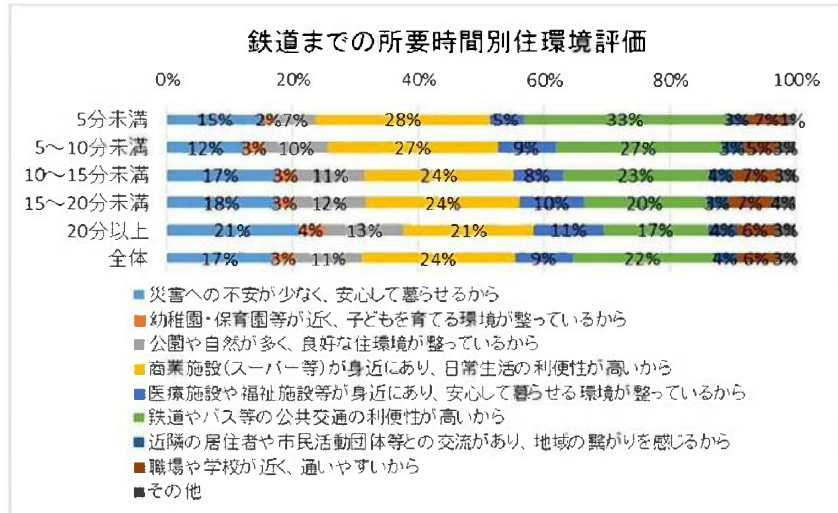
中原区、幸区、川崎市では利便性の評価が高く、麻生区、多摩区、宮前区では災害に対する安全性や公園や自然などの住環境の評価が高い。



市民アンケート結果

③ 鉄道駅までの所要時間別住環境評価

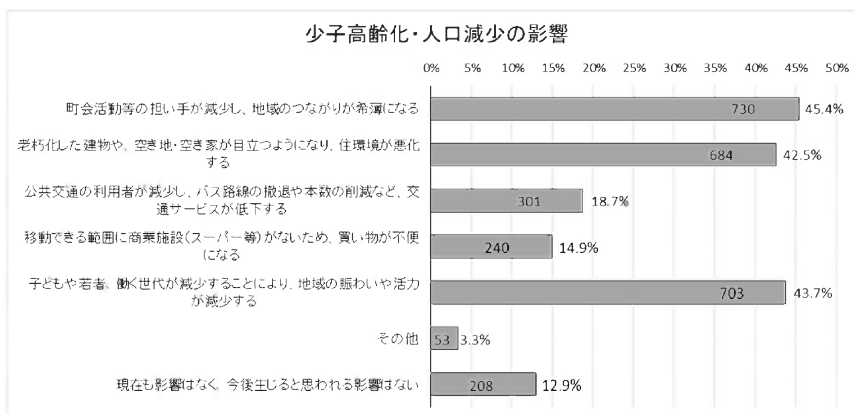
鉄道駅までの所要時間が短いほど、公共交通の利便性を評価する割合が高く、所要時間が20分以上でも、約2割は公共交通の利便性を評価している。



市民アンケート結果

④ 少子高齢化・人口減少の影響

地域のつながりの希薄化や住環境の悪化、地域の賑わい・活力の減少を不安に感じている回答が多かった。

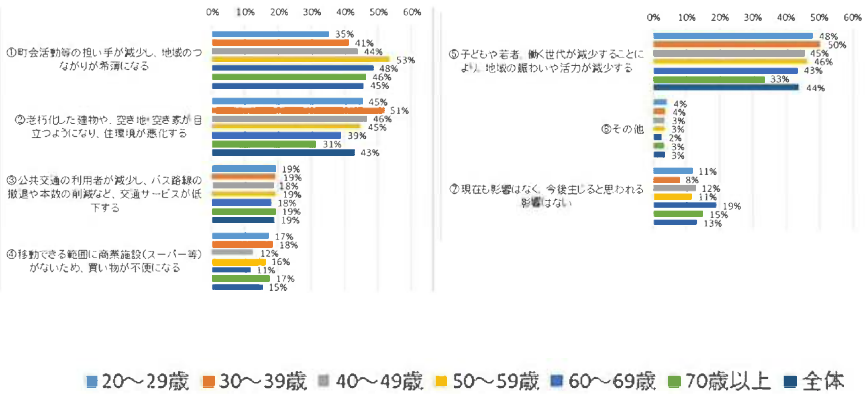


市民アンケート結果

⑤ 少子高齢化・人口減少の影響(年齢別集計)

町内活動等の担い手の減少に対する回答では、50～59歳での割合が高く、空き家・空き地等の増加による住環境の悪化に対する回答では、30～39歳での割合が高い。

年齢別の少子高齢化・人口減少による地域への影響

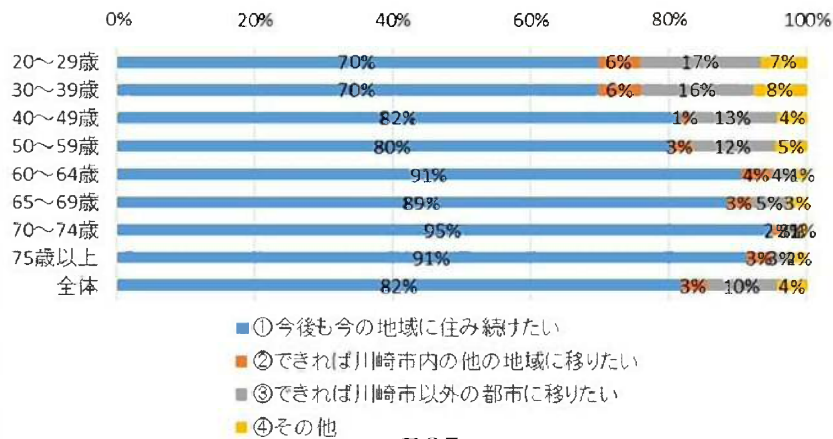


市民アンケート結果

⑥ 年齢別継続居住意向

高齢になるほど、移住したいとする回答の割合が減少している。

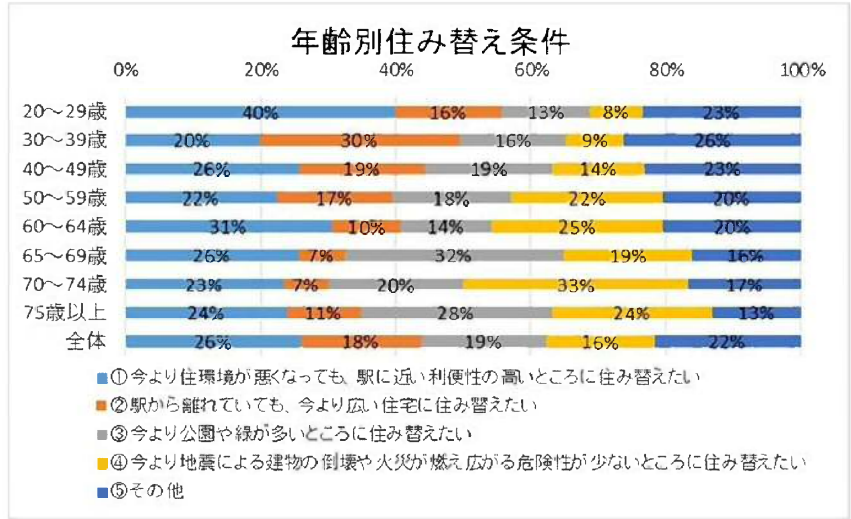
年齢別継続居住意向



市民アンケート結果

⑦ 年齢別住み替え条件

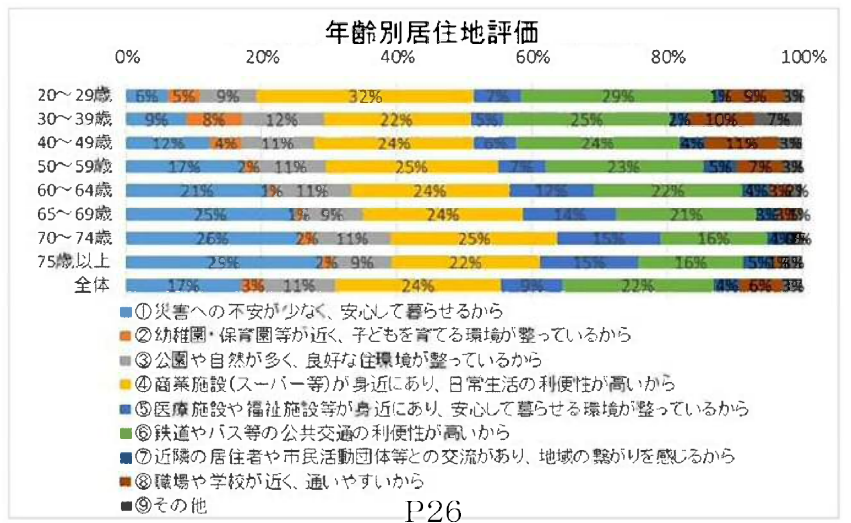
20代では「駅に近い利便性の高いところ」と回答する割合が高く、30代では「広い住宅」と回答する割合が高い。



市民アンケート結果

⑧ 年齢別居住地評価

年齢が高いほど、災害への不安が少ないことを評価する割合が大きくなる。また、日常生活、公共交通の利便性の評価は全体を通して割合が高い。

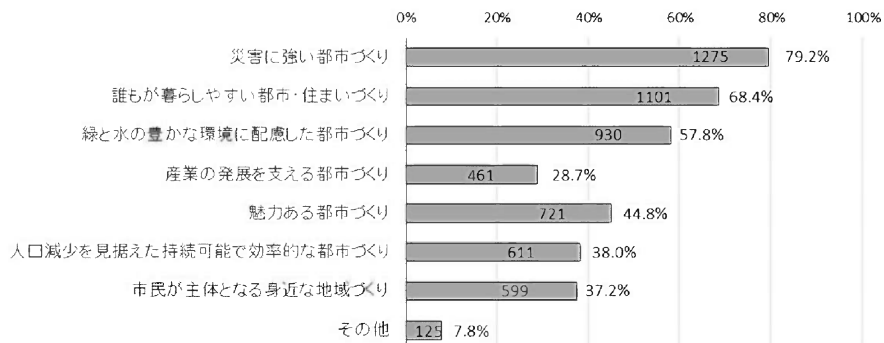


市民アンケート結果

⑨ 都市計画マスタープランの重要テーマ

都市マスを見直す上で、「災害に強い都市づくり」、「誰もが暮らしやすい都市・住まいづくり」、「緑と水の豊かな環境に配慮した都市づくり」を重要と考える回答が多かった。

都市マス重要テーマ



市民アンケート結果

⑩ まちづくりの参加意向

まちづくり活動にすでに参加している方や参加したい方(条件付も含める)を合わせると、約5割以上の方がまちづくり活動への参加に肯定的な意見であった。
一方で、情報がないという回答が約2割あった。

まちづくりの参加意向



市民アンケート結果

① 都市計画マスタープランの認知度

約8割が都市マスを「全く知らない」という回答であった。

